

6年生修学旅行に行ってきました。たいせつな事前学習と長崎市での学習

6年生は、年間を通して社会科や総合的な学習で歴史や社会情勢の学習をして、世界のことを学んでいきます。それは、小学校6年間の総まとめの学習であり、予測困難な社会を生き抜いていく力のもとになるものだと思います。修学旅行は、事前の学びと当日の体験学習、そして、事後の学習を通して、戦争の実像と平和の大切さを学び、他の人と共存していくことの必然を体得するたいせつな学習だと思います。今号は、6年生が修学旅行に行く前の事前学習と修学旅行での学びを限られた紙面ですが紹介します。

1. 事前学習 9月9日(月) とても貴重な横島町の戦争体験講話

子どもたちにとって大先輩であり、いつも横島小や子どもたちを支え育てていただいている、沼垣様と米岡様、大谷様からそれぞれ貴重なお話を聞かせていただきました。



沼垣様の講話

沼垣様からは、太平洋戦争末期に特攻隊となられた方がたの覚悟を記した「軍人勅諭特攻隊留魂録」という自筆の文字を見せていただきながらお話をしていただきました。沼垣様のお父様が、特攻隊の教官をされていて、隊員の方がたが書かれた「留魂録」をたいせつに保管され、沼垣様が受け継いで保管されている実物を持参して6年生に見せていただきました。家族や故郷を思い、「忠」や「誠」、「義」の文字を書き残して戦争に行かなければならなかった特攻隊員の気持ちを子どもたちは、その文字や当時の写真から感じ取っていました。



米岡様の講話

米岡様からは、旧制玉名中学校の4年生の時に、学校での授業はほとんどなく、荒尾にあった日本軍の兵器工場に泊まり込みの2交代制で石炭から火薬を作る作業をしていた話をお聞きしました。泊まり込みで出される食事は、わずかなご飯と蒸かしたさつま芋でとてもお腹がすいていたそうです。また、同級生が学生でありながら兵隊として戦争に特攻隊員として出兵されたそうです。戦争は、決してしてはならない。平和が何よりたいせつであることを教えていただきました。旧制中学校とは、太平洋戦争後の学制改革より前の日本で、旧制高等学校（現在で言うならば大学）へ進学を望む男子が、6年制の尋常小学校を経て進学する5年生の学校のことです。旧制玉名中学校は、1948年に玉名高校となって現在に至っています。



大谷様の講話

大谷様からは、5歳だった1945年8月9日の午前11時過ぎに、雲仙岳の向こうに夕焼け色のどす黒い空と大きなきのこ雲が見えたことを話され、後でそれが長崎市に落とされた原子爆弾の雲だったことを知ったと語られました。横島からは、長崎市に落とされた原子爆弾のきのこ雲がはっきりと見えたそうです。大谷様は、横島小の第35代校長でもあられ、戦争の悲惨さと平和の大切さを教えていただきました。

2. 長崎市での学習 9月13日(金)

(1) 被爆体験者のお話から学んだこと



長崎市平和公園の研修室で被爆体験のお話を今道忍様からしていただきました。当時の長崎での生活、学校で教えられたこと、とてもなかの良かった同級生が、原子爆弾で命を奪われこと等、事実を語ってくださいました。そのお話を聞き、子どもたちは、次のような感想を返してくれました。

今道様へのお礼の言葉 「戦争は、平気で人を殺して、大切な人、町をうばっていくものでとても怖いものだと思います。」「今道さんは、『どんな小さいことでもいいので、一人一人が平和をつくっていくこと』とおっしゃいました。私も修学旅行で学んだことを家族や友達に伝えるなど、自分にできることをして平和をつくっていきたいです。」「今道さんは、戦争のない平和な世界を次の世代に渡す責任があることを伝えてくれました。」「私たちにできることがきっとあります。平和を考えたり、見つけたりすることでもいいので取り組んでいきましょう。」

想像を絶する苦しみや困難を生き抜いて来られた今道様のお話を子どもたちは、しっかりと聞き取り、平和な世界をきづくために自分にできることを考えました。

(2) 長崎市平和公園での平和集会

次の文は、6年生が長崎市の平和公園で平和集会を行い、群読した誓いの言葉です。



「私たちは、この修学旅行に向け、平和の大切さを学びました。戦争でたくさんの尊い命がうばわれました。原爆による後遺症に今でも苦しんでいる方々がおられます。世界の国々では、今も戦争が起こり、多くの人々が犠牲になっています。

戦争のない平和な暮らしをつくるために私たちは、次のことに取り組みます。○自分の命、まわりの人の命を大切にします。○友達のことを思い、お互いを認め合います。○この修学旅行で学んだことを学校の友達や家族に伝えます。○まずは、自分の身の回りの平和を考え、行動し、みんなが笑顔でくらす社会をつくっていきます。

そして、二度と戦争を起こさず。平和な世界をみんなで作っていくことを誓います。」

令和6年 9月13日 玉名市立横島小学校 6年生一同

この誓いの言葉を私も誓いの言葉として、不戦の誓いと恒久平和のために尽力します。

(3) 長崎市原爆遺構フィールドワークと長崎原爆資料館で見聞したこと



永井博士の如己堂

原爆資料館の見学

午後からは、長崎市原爆遺構を長崎市のボランティアガイド様たちの案内で班に分かれて見聞しました。長崎市平和公園、浦上天主堂、如己堂、山里小学校、爆心地と歩いてまわり、79年前の原子爆弾の遺構や平和を願う優しく強い永井隆博士の生き様を実際に見て聞いて、そして、長崎原爆資料館の展示品や写真を見て、子どもたちは原子爆弾の恐ろしさと平和の大切さをあらためて強く感じ、これから自分がしなければならないことを一人ひとり考えました。